

## 九州大学法学部ニュース : 第25号

<https://hdl.handle.net/2324/2200422>

---

出版情報 : 法学部ニュース. 25, pp.1-, 2018-11-11. Kyushu University Faculty of Law  
バージョン :  
権利関係 :



2018年11月11日 九州大学法学部広報委員会

## 2018年度 オープンキャンパス開催!

2018年8月5日(日)に、オープンキャンパスを開催しました。箱崎キャンパスで開催するオープンキャンパスは、今年で最後になります。今年も、法学部には860名もの高校生のみなさまにご来場いただきました。



講義風景



保護者引率者向けセミナー



学生によるグローバルヴァンテージ・プログラム紹介



教員との質疑・交流 (蓮見准教授)



研究室訪問 (岡崎教授)



村上教授



小島准教授



法学部生との質疑・交流



フォルマシオン講師



南野教授



新屋敷准教授



成原准教授

# 新任教員自己紹介

## 着任挨拶

成原 慧

基礎法学講座・情報法 准教授



はじめまして。愛知で生まれ育ち、東京で学生生活を送り、東京大学大学院学際情報学府博士課程単位修得退学後、東京大学大学院情報学環助教、総務省情報通信政策研究所主任研究官等を経て、本年3月に九州大学に着任いたしました。専門は情報法で、特にインターネット上の表現の自由やプライバシーに関する法的問題を研究してきましたが、最近では人工知能（AI）・ロボットに関する法的問題の研究にも取り組んでいます。

法学部・法学研究院では、情報法の研究を進めるとともに、情報法の講義や基礎演習など教育に励んでおります。私は、本年度からスタートした文系4学部の副専攻プログラムにも関わっており、運営のお手伝いをするとともに、プログラム向けに講義も提供しています。情報法は、学際的な法分野であり、憲法や民法など法学の各分野はもとより、経済学やメディア史など人文社会科学、情報工学など理工系の学問とも関わり合いをもっています。学部横断的な知的交流が活発化している本学の学際的な環境の下で、今後も研究・教育に邁進して参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

## 着任挨拶

大脇 成昭

公法講座・行政法 准教授



2018年4月に行政法担当准教授として着任いたしました。1996年に本学法学部を卒業し、大学院で学んだ後、熊本大学に17年間勤務し、当初は懐かしの箱崎キャンパスに戻って参りました。自身が9年間過ごした学舎は、時を経て変わったところが随所に見られるものの、意外なほどに多くは当時の面影を残していました。箱崎キャンパス最後の最後に接することができ、本当に幸運に恵まれたものだと感じました。

今秋からは伊都キャンパスにて、九州大学法学部の歴史に新しいページが加えられています。また法科大学院については一足先に、これも懐かしい六本松の地にて新たなスタートが切られています。このような大転換期の流れに身を任せつつも、自身にできることは何かを冷静に考えながら、教育・研究をはじめとする多面的な役割を全力で果たしてゆきたいと考えております。これからどうぞ、よろしくお願い申し上げます。

## 駐日パキスタン特命全権大使

### アサド・マジード・カーン氏のご来学



2018年4月12日、九州大学LL.M. / LL.D.出身であり、現在、駐日パキスタン特命全権大使であるアサド・マジード・カーン氏が、箱崎キャンパスに来訪されました。アサド大使は、法学部の国際コースであるGVプログラムの学生と昼食を取り、その後、特別講義をしていただきました。

His Excellency, Dr. Asad Majeed Khan, the Ambassador of Pakistan and a former LL.M. and LL.D. student of the Faculty of Law, Kyushu University visited Hakozaki on Apr. 12. He gave two special lectures and had a lunchtime meeting with GV program students.



## 着任挨拶

徳本 穰

民事法学講座・商法 教授



本年4月1日付けで商法担当の教授として着任いたしました徳本穰と申します。福岡で生まれ育ち、1990年に九州大学法学部を卒業いたしました。その後、九州大学大学院法学研究科にて修士（法学）及び博士（法学）、米国イェール大学ロースクールにてLL.M.の学位をそれぞれ取得いたしました。米国イェール大学ロースクールにて客員研究員、文部省在外研究員。九州大学法学部助手、琉球大学法文学部助教授、専修大学法科大学院助教授、筑波大学大学院教授等を経て、母校であります本学に着任いたしました。

専攻分野は、商法、企業法で、特に、商法、会社法、金融商品取引法、経済特区法制、国際企業法等の領域を主に研究しています。これまで、企業買収やコーポレート・ガバナンス等の法的課題を中心に研究してきましたが、企業の誘致・進出や経済特区をめぐる法的課題の研究や法整備支援等にも従事しています。

微力ではございますが、母校のために些かでも貢献できればと存じております。何卒、御指導・御鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

## 着任挨拶

平山 賢太郎

社会法学講座・経済法 准教授



本年10月1日付にて九州大学法学研究院（社会法学講座・経済法専攻）に着任いたしました。本学着任前は、独占禁止法（経済法）専門弁護士として企業代理人の立場から、また公正取引委員会に3年間勤務して事件審査官の立場から、もっぱら独占禁止法関連業務を行ってまいりました。また、実務家教員として、他大学の法学部、ロースクール及び知的財産専門職大学院において独占禁止法の講義やゼミを担当してまいりました。

今後は、実務家としての活動から大学における研究・教育活動へと軸足を移し、電力・ガス小売自由化や地方銀行経営統合など各業界に生じている変化を独占禁止法の観点から分析し、その成果を講義やゼミの場において学生の皆さんと共有してまいりたいと考えております。何卒よろしくお願い申し上げます。

## 2018年度入学式が挙行されました



2018年4月に、法学部・法学府・法科大学院の入学式が、同10月に国際コースの入学式が執り行われました。2018年度の入学者は以下の通りです。

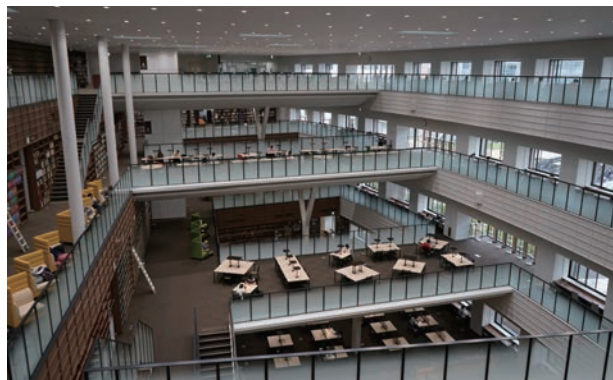
### 2018年度 入学者データ

■法学部		■法学府修士課程		■法学府博士課程	
前期日程	158名	研究者コース	2名	研究者コース	4名
後期日程	41名	専修コース	10名	高度専門職業人コース	0名
AO入試	4名	国際コース	41名	国際コース	2名
外国人留学生	1名	計	53名	計	6名
帰国子女	1名				
計	205名				
		■法科大学院			
		法学未修者		15名	
		法学既修者		19名	
		計		34名	

# 学生から見た新キャンパス「イーストゾーン」

2018年10月、法学部は伊都キャンパスへの移転を完了しました。この時点で、20年以上に及ぶ九州大学全体のキャンパス移転事業も、ついに完成を迎えました。

2018年度後期からは、さっそく法学部生が、伊都キャンパスの中でも最新の「イーストゾーン」で学修を始めています。以下では、学生の視点から、この新しいキャンパスを紹介します。



## ■九州大学中央図書館

箱崎にあった旧中央図書館に変わる九大最大の図書館、収蔵能力は約350万冊を誇る日本最大級の大学図書館です。イーストゾーンの丘を半分切り取ったような建物で、建築基準法上では地下4階建てとして扱われる大変珍しい構造をしています。2016年10月に3分の1の部分が先行開館しておりましたが、2018年10月の伊都キャンパス移転完了に合わせ全面開館となりました。プロジェクターを使った講義スペース、コンセントプラグの付いた学習テーブル、グループでディスカッションすることができる個室スペースなど様々な設備が用意されています。一人で黙々と学習したい人も、議論を深めながら学習したい人も、あらゆる学習スタイルに対応した図書館になりました。開館時は約260万冊の本が所蔵されており、大学図書館の蔵書数としては東京大に次ぎ、全国で二番目の多さになります。

法学部生にとってはすぐ近くに図書館があるので授業の合間に勉強をしに行くことが多いです。箱崎では違うところに分かれていた文系合同図書室と旧中央図書館の本が一元的に置かれるようになったので、ゼミ論の際の資料選びもとてもやりやすくなっています。図書館の一角には「童夢カフェ」というお店があり、美味しいパンやカレーが学生たちの新たな名物となっています。



## ■教室

箱崎では「大講、中講、101・・・」などと呼んでいた教室ですが、新キャンパスでは大講義室は2つになり法学部棟にも講義室が置かれるようになりました。机の配置は四角型や円状のものなど様々で、各座席にコンセントプラグを設置し、演習室ではゼミの議論を円滑に進めていくために一部の教室で前後両面に黒板を配置するなど、より良い学習環境を実現するためにいくつかのこだわりを盛り込んだそうです。各講義室には車椅子用の座席のないテーブルも配置されており、机の間隔も広がって、バリアフリーに配慮した教室設計がなされました。

講義室は基本的に1階にあり、場所が集約されたことで授業間の移動も楽になりました。法学部生たちはその時間を学友との談笑や授業の予習復習に当てています。建物の窓が大きいのも特徴で自然光を効果的に取り込むことができ、より明るく開放的な環境で授業を受けることができるようになっています。

今でも配置図を見なければ迷子になってしまうような大きな校舎ですが、「これからの百年を担うキャンパス」にふさわしい最高の学習環境が整った場所であると感じることができます。



# 学生から見た新キャンパス「イーストゾーン」



## ■イーストゾーン

伊都キャンパスは1年次の基幹教育が行われるセンターゾーンを中心として大きく3つのゾーン分けがなされており、法学部はその東側の小高い丘の上、イーストゾーンに位置しています。イーストゾーンには文系学部のほか、工学部の建築学科や共創学部も配置されています。校舎などは図書館の屋上部分に広がっており、広い芝生や小庭など自然を意識したデザインがなされています。建物の外観は、博多織を意識した紫、青、赤、黄、紺からなる五色献上という色彩が使われています。またイーストゾーンからは伊都キャンパスの全景やJR沿線の街の風景を眺めることができます。イースト1号館9階にある石ヶ原古墳跡展望展示室では福岡タワーなども望むことができます。時折、キャンパスから見える風景も写真に収めるためにカメラを向ける学生たちの姿も見ることができます。飛行機の音や都会の喧騒から離れて少し物寂しさを感じますが、1年生や理工系学部もいる伊都キャンパスはたくさんの学生で毎日が活気づいています。たくさんの知識に溢れ、自然に囲まれた活力あふれるキャンパスの一角で、今日も法学部生は勉強に励みます。



## ■法学部の取り組み

法学部では新キャンパス移転にあたって、学生に対して快適な学生生活を送ってもらえるよう皆様からの寄付で成り立っております「法学部学修環境基金（旧ロー・ライブラリー・プロジェクト）」を通して様々な取り組みを行っています。学生が六法などを保管できる学生ロッカーや法学に関する参考図書やゼミ論集などを閲覧できる法学部サロンなどを設置しています。特にロッカーは、いただきました寄付を活かして移転前の2倍に許容数を増やすことができたそうです。その他公務員学習ツールの導入や判例検索ができるLLPデータベースの提供など、学生のニーズに答えながら様々な活用できる学習環境を法学部では提供しています。

伊都キャンパスへは自転車や徒歩での通学者も多く、授業で使う六法や参考書はやはり重いので、毎日家に持って帰るのも重労働となります。そのためロッカーは法学生にとってとてもありがたい設備であり、使用している学生も多く見られます。またコピー機も設置され、ゼミ論文や授業レジュメの印刷に活用されています。その向かい側には法学部サロンがあり、ロッカーで教材を取ってそのまま学習をすることもあります。当日の新聞も置かれており、法学部生にとっては貴重な学習の場として機能しています。

# 比較法国際アカデミー

2018年7月22日から28日、第20回比較法国際アカデミー国際会議(組織委員長河野俊行主幹教授)が、東アジアで初めて、椎木講堂ほか福岡市内4か所の会場で開催されました。

22日はタイ、フィリピン、日本の最高裁からスピーカーを招き、アクロス福岡にて裁判官教育に関するパネルディスカッションを開催、翌23日に椎木講堂で執り行われた開会式では、秋篠宮殿下、松山政司内閣府担当特命大臣、山口厚最高裁判事、小川洋福岡県知事、久保総長からお言葉をいただいたほか、カタリーナ・ブーレヴェルキ比較法国際アカデミー会長、山極寿一日本学術会議会長、河野教授が歓迎の言葉を述べました。

学術面ではスーザン・キーフェル豪州最高裁長官の基調講演に始まり、椎木講堂と福岡国際会議場にて、40を超えるセッションで活発な議論が展開されました。なかでも九大が主導したシェアリングエコノミー、

ビッグ・データ、テクノロジーと法を扱ったコンGRESS・イン・コンGRESSは大変好評でした。75か国超の国々から832名が参加者し、同アカデミーとしても近年最大規模の学会となりました。

アトラクションは、KIMONOプロジェクトの華やかな着物ショーにはじまり、ジャパン・マーベラスの圧倒的な和太鼓の演奏で締める、福岡にこだわった演出で、これまでで最高の会議だったとのお褒めもいただいています。

7月28日には、福岡大学メディカルホールで、ブーレヴェルキ会長、村木厚子・元厚労省事務次官、水野紀子・東北大学教授をパネリスト、原田直子・元福岡県弁護士会会長を司会とする市民フォーラム「ひとり親家庭の貧困～比較法にその解決の糸口を求めて」が開催され、一般市民にも比較法の成果の一端が披露されました。



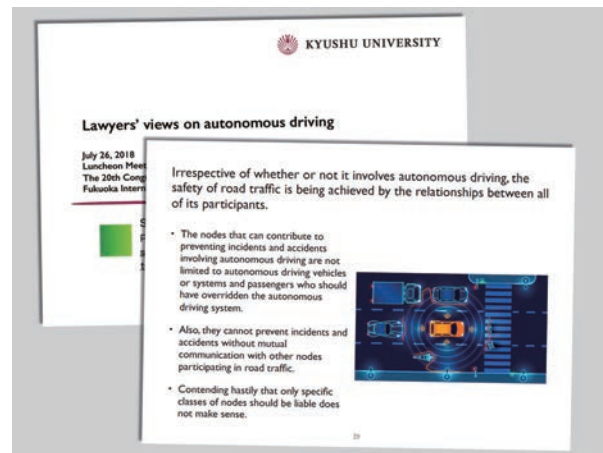
右から久保総長、小川県知事、山口最高裁判事



河野教授



シンポジウム会場



報告スライドの例

九州大学法科大学院は、2018年度も、29名の司法試験合格者を輩出しました。以下では、2名の新規合格者と、すでに弁護士として活躍されている1名のOBに、司法試験合格までと、その後の体験を語っていただきました。

## 司法試験合格者体験記 (2018年)

富永 悠太



「どうやら司法試験を受けるには、ロースクールなるところに行くらしい」と私が知ったのは、学部2年生の頃だったでしょうか。司法試験を特に意識せず九州大学法学部に入学したことを思えば、こうして合格者として寄稿するのは感慨深いものがあります。

さて、法学部生とその保護者の皆様、私は2018年3月に九州大学法科大学院（ロースクール）を修了し、5月に受けた司法試験に合格しました。「それならさぞ学部の頃から優秀だったのだろう」と思いきや、成績は鳴かず飛ばず、学部4年生の5月まで部活で剣道に打ち込み、慌てて入試の勉強をするも間に合わずことごとく失敗、二次募集で本学に拾われるという有り様でした。それでもロースクールでの2年を経て合格できたのは、ひとえにご指導頂いた本学の先生・先輩

方と自主ゼミ等で一緒に勉強した優秀な同期たちに恵まれたからにほかなりません。

法学部生の皆様、「法学部です」というだけで「将来は弁護士ですか？」などと聞かれがちで、将来の進路として考えている方もおられるでしょう。早めに勉強するに越したことはないけれど、どうせロースクールで死ぬほど勉強します。今は、視野を広く持ち、多くのことを経験して、法律そのものよりもそれが支える社会に関心を向けて下さい。皆様のご活躍を祈念致します。

## 司法試験合格者体験記 (2018年)

山口 大輔



みなさんはじめまして、山口大輔と申します。私は、九大法学部から九大法科大学院へ進学し、今年司法試験に合格することができました。法科大学院では、みなさんがご想像の通り、ひたすら司法試験に向けた勉強をします。どうしても、受験勉強中心の生活になりますが、1つのことだけに向き合う数少ない機会だったので、今考えれば充実した学生生活だったと思います。

私も学部時代は、みなさんと同じように普通の学生でした。授業を受けて、アルバイトして、サークル活動して、夏休みや春休みには旅行してというように、特に受験のために特別なことをしていたわけではありません。（授業の復習を時々していた程度です。）法科大学院入試の受験勉強を始めたのも4年生になってからでした。それでも、今を迎えられたのは、法学部で頭を鍛える機会が多くあったからだと思います。特に、南野ゼミと上田ゼミでは、興味を持つ分野について、じっくりと考えることができました。ゼミで鍛えてもらった思考力が司法試験にも活きたと思います。

「私には無理だから」などと思わず、興味がある方は積極的に法科大学院進学・司法試験の受験を検討してみたいかがでしょうか。

## 先輩弁護士からのメッセージ

楠田 瑛介

2010年九大法学部卒業、2012年九大法科大学院修了



卒業間近に2年生と一緒に授業を受けていた不真面目な学生生活。もう10年も前の話です。今は、飯塚市で弁護士をしています。みなさん、色々な体験をしていますか？私は、学部生のときに、もっと沢山のひとと出会いたかったなと後悔しています。試験勉強とは関係ないから無駄？そうかもしれない。

まだ弁護士登録して5年弱。そんな短い期間ですが、沢山のひとと出会いました。覚せい剤から抜け出せずそのまま飲み干すようになったおじいさん、子どもに会えず調停で涙を流すお父さん、無茶な車の修理費を請求する社長さん、自分の意見を言いたい生活保護受給者、熱心に夢を語る親を失った中学生、人生の大半を施設の中で過ごしている17歳の少年。学部生のときに出会った

た非行少年の親。その方の言葉をいつも胸に、困難を抱える子どもたちと接しています。

九大ロースクールでは、実務での様々な葛藤を知ることができました。学部ではなかなかできない経験です。どんな仕事をするにしても、キャンパスの外に放り出された瞬間から、人間関係は無限に広がります。今のうちから、キャンパスの中や外でいろいろな経験をしてください。え？伊都ではできない？だったらもっと遠くに。



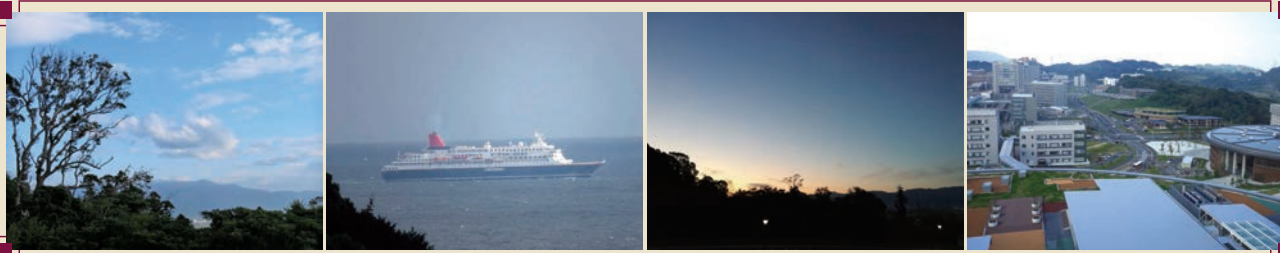
2005年度から、法学部の保護者の方々のご寄附および教職員からの寄附金を基に、法学部学生の学修環境を整備する法学部学修環境基金を実施しています。

ご寄附いただいた資金は、「法学部学生情報サロン」の開設と運営、ロッカーやコピー機の設置、ゼミ論集刊行、そして法学部ニュースの発行など、学生の教育環境の充実および保護者への法学部の情報発信として使用してまいりました。

2017年度の執行状況は学生情報サロン運営費、サロン配架の書籍・雑誌の購入、判例データベースの契約等で、2,406,321円を支出しました。

今後も、学生の勉学環境・福利厚生の上昇のため、様々な施策を展開していきたいと考えています。ご意見・ご要望がございましたら、ぜひご連絡ください。

◆収入	(円)
前年度繰越金	3,018,802
H29年度寄附金	1,720,000
収入合計	4,738,802
◆支出	
学生情報サロン雑誌・辞書購入費	174,866
ゼミ論集刊行助成金	356,597
法学部ニュース刊行・発送費	729,518
法科大学院教育研究支援システムサービス (TKC) の利用	899,100
雑誌記事索引集成DBサービスの利用	246,240
教科書購入費	0
支出合計	2,406,321
翌年度へ繰り越し	2,332,481
総計	4,738,802



研究室よりの風景

## 編集 後記

- ・2018年10月、九州大学法学部は伊都キャンパスへの移転を完了しました(4頁)。新しいキャンパスはまだ色々と至らない箇所がありますが、法学部生がスムーズに新しい環境を利用できるよう、ハード・ソフト両面の整備に力を入れて参ります。引き続き、皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。
- ・2018年度から、公務員志望の法学部生のためのインターネット学修環境「公務員試験学習ツール」の運用が始まりました。現在、法学部2・3年生合わせて62名の学生が、上記ツールを利用して公務員試験勉強を行っています。今後も、学生の多様なキャリアプランに合わせた学修環境を、一層整えてゆきたいと思えます。
- ・25号より、「法学部ニュース」発行をはじめとする様々な広報活動に、法学部生のスタッフが参加することになりました。学生ならではの視点から、皆様に最新の情報をお届けしてゆきます。
- ・今回初めて、わたしたち学生スタッフが、法学部ニュースの編集に参加しました。今回の伊都キャンパス紹介をかわきりに、これから学生目線の「法学部の今」を発信していきます! 魅力いっぱいの新キャンパスにも、是非お運びを! (学生スタッフ一同)

法学部研究補助室 (hojo@law.kyushu-u.ac.jp)